

新年のご挨拶

公益社団法人日本薬剤師会  
会長 山本 信夫



新年明けましておめでとうございます。青森県薬剤師会会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素より本会の進める諸事業に格別のご理解とご支援を賜っておりますことに、この場をお借りして心より厚く御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの変異株の出現で、これまで経験したことのない第4波、第5波のパンデミックにより、緊急事態宣言が各地で繰り返し発令されるなど、国民生活がCOVID-19に翻弄された一年でありました。2月からスタートしたワクチン接種については、全国各地で医師・看護師・行政当局と連携協力して、ワクチン接種体制の確保にむけ、接種前の問診やワクチンの希釈・充填作業等を通じて、迅速な接種環境の整備にご協力頂きましたこと、また感染者の急増に伴い自宅あるいは施設等で療養を余儀なくされた地域の方々への、切れ目のない医薬品提供にご尽力をいただいていることに、日本薬剤師会を代表して感謝を申し上げます。

また、超高齢社会を見据えた薬剤師・薬局の新たな姿を目指す、地域連携薬局・専門医療機関連携薬局という認定薬局制度がスタートしました。目先の認定にとらわれることなく、地域住民の医薬品ニーズに即応可能な新たな概念に基づいた基本的機能を備えた薬局として、その役割を担い地域住民から確実な信頼が得られるよう不断の努力が求められる年となります。そのためには、これまで、ややもするとお座なりになりがちであったセルフケア/セルフメディケーションに対しても、医薬品の安全は薬剤師が守るという気概を持ち、より積極的なOTC医薬品への対応が欠かせません。数年来論議されている緊急避妊薬等についても地域の実情を踏まえた的確・適切な提供体制の構築やその取り組みが不可欠であると考えます。

一方、様々に形を変えながら薬剤師業務への規制改革の圧力は未だ弱まる兆しが見えません。国が進めるICT化やデジタル化が薬剤師業務に大きな影響を与えることに対しても臆することなく、「薬剤師の本質的な業務」について自ら再検討を加えることは、避けて通れない大きな課題と認識しています。「調剤の外注を認めよ！」等の薬剤師業務に対する様々な声が聴かれています。また、「薬剤師の役割は何か？」と言う重要な命題について、自ら解決策を模索する姿勢が求められていると思います。

また、政治の分野に目を転じれば、本年夏には参議院議員選挙が行われます。

やっと築いた組織代表 2 人態勢を維持できるか、薬剤師の将来を左右する重要な年となることも忘れてはならないと思います。

解決すべき課題は山積していますが、会員の皆様が一丸となって、社会からの大きな期待や医療における役割の重要性等について見つめ直し、迷わず行動を起こし、果敢に課題に取り組み、青森県薬剤師会会員各位にとって本年が「真に薬剤師の輝ける年」となるよう祈念して、新年の挨拶といたします。